

## よみがえる! 伝説の日本画家

佐野美術館創立55周年・  
三島市制80周年記念  
渡辺省亭  
—歐米を魅了した  
花鳥画—  
2021.7.17[土]—8.29[日]



《牡丹に蝶の図》(部分)  
明治26年(1893) 個人蔵

**渡** 渡辺省亭(1852~1918)  
の花鳥画の代表作  
『牡丹に蝶の図』。眼  
を惹くのは赤い牡丹に黒揚羽。画  
面に近づけば、花弁の柔らかな重  
なりは、絵の具の濃淡を利かせな  
がら暈しています。一方、蝶の羽  
の脈、触覚などは極細筆で丹念に  
描き出しています。日本画の伝統  
的な量しの技法や線描によって西  
洋的な実在感を表す手法は、渡  
辺の経験を通じて磨き上げたもの  
といわれます。

省亭の作風は、七宝家・濤川惣  
助(1847~1910)の考案による無  
線七宝の発展にも貢献しました。  
無線七宝は日本画の量しや筆あと  
などが自在に表現でき、省亭の華  
麗で緻密な絵画世界にも肉迫しま  
した。そして迎賓館赤坂離宮「花  
鳥の間」を飾る七宝焼に結実、濤  
川の最高傑作となりました。省亭  
の作も原画の域を超えた、緻細優  
美な趣に満ちています。

省亭は出版界でも活躍しました。  
春陽堂から『美術世界』の編集を任  
された省亭は、当時最高の彫師・  
摺師の手によって、美麗な木版多  
色摺の美術雑誌を作り上げました。



《迎賓館赤坂離宮 七宝額原画 駒鳥に藤》  
東京国立博物館蔵  
Image: TNM Image Archives  
[展示期間: 7/17(土)~8/4(水)]

最後の25巻は省亭花鳥と題し、『雀  
啣落花』はその一枚です。雀の足  
元の椿の赤い花びらが、小さな画面に  
深い印象を残します。省亭を敬愛した日本画家・鍋木清方  
(1878~1972)は、省亭作品の魅力  
が赤の絶妙な配色にあることを自  
らの隨筆で幾度も語っています。

当代一流の作家たちから崇敬さ  
れた省亭の芸術。その珠玉の作品  
は、国内のみならず海を越え、欧  
米の美術館や個人コレクターにも  
愛蔵されました。

本展は、個人所蔵を中心に海外  
からの作品も含めた名品約100点  
を紹介する、初の大規模回顧展で  
す。人の心をつかむ鮮やかな色彩  
と内に潜む超絶の画技で世界を魅  
了した渡辺省亭。知られざる画業  
が今夏、蘇ります。

(学芸グループ長 河内えり子)



渡辺省亭原画 濤川惣助作《七宝四季花卉図花瓶》  
静嘉堂文庫美術館蔵  
画像提供: 静嘉堂文庫美術館 / DNPartcom



## 天才・加守田章二の陶芸 —その形と色が 目指したもの

佐野美術館創立55周年・  
三島市制80周年記念  
加守田章二 天極をさす  
2021.9.4[土]—10.17[日]

20 世紀後半、すい星の  
ごとく現れ49歳の若  
さでこの世を去った  
陶芸家、加守田章二(1933~1983)  
の展覧会を開催します。

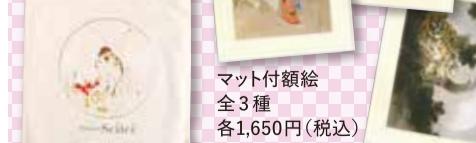
加守田は1933年、大阪に生まれ  
ました。京都市立美術大学(現・  
京都市立芸術大学)で陶芸家の富  
本憲吉に師事、卒業後日立大甕陶  
苑の技術員を経て栃木県益子の  
塙本製陶所の研究生になり、翌  
1959年同地に窯を開いて独立しま  
した。この益子時代に加守田は土

曲線彫文壺 1970年  
岐阜県現代陶芸美術館蔵



### ミュージアムショップ

#### 渡辺省亭展と、夏のオススメ商品をご紹介♪



彩陶壺  
1971年  
個人蔵

器風の自然釉の表現を追い求め、  
それが土という素材の変化を創作  
の根本に置くきっかけとなったの  
です。

2年後、加守田は益子から岩手  
県遠野に拠点を移し、1970年「曲  
線彫文」という独自の造形を生み  
出し陶芸界に衝撃を与えました。  
木目や仏像の衣文から着想したと  
いわれる波打つ彫線は、力強く繊  
細で、土の咆哮が聞こえるようす。

さらに加守田は翌年、色を用いた  
「彩陶」シリーズを発表、朱、白、  
緑の鮮やかな色彩が器面を彩りました。  
彩陶を発表した個展会場には  
「飛翔の色」と題した加守田の  
言葉が掲げられました。

私は矛盾を感じ 抵抗を感じ  
内に暗さや重さを秘めながら  
軽く明るく 飛翔したい欲望があ  
る そんな気持ちが 私に 色を  
使わせた

その後も加守田は、次々と作風  
を変えながら土の表現に挑戦し続

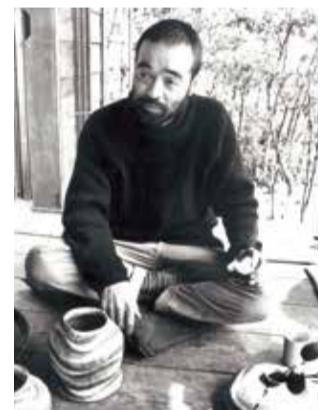
けます。

私の仕事は陶器を作るのではなく  
陶器を利用しているのです  
私の作品は外見は陶器の形をして  
いますが中身は別のものです(同  
上個展会場「私の陶芸観」より)

加守田章二が生涯目指した確固  
たる地点一天極一とは何だったの  
か、多彩な顔をみせる作品群の前  
で思いを馳せてください。

(館長 坪井則子)  
写真提供: 益子陶芸美術館

加守田章二 1971年



香彩堂  
フレグランスサシェ  
各495円(税込)  
縁起の良い動物たちの  
生き生きとしたパッケージが  
可愛い香り袋です。



ケイク  
てぬぐい豆扇子  
各2,200円(税込)  
てぬぐい生地を使用した布扇子。  
お持ち運びにピッタリなサイズです。  
(長さ17.5cm)

山壽杉本商店

茶ひと揃え  
アイスティー緑茶  
670円(税込)



役者が揃ったTEABAG  
1,080円(税込)  
静岡県産の茶葉を  
使用しています。  
どなたでも  
美味しく淹れられる  
写真解説付き。

